

## 会議録

会議の名称	第5回西東京市廃棄物減量等推進審議会
開催日時	平成23年11月28日（月曜日） 14時00分から16時00分まで
開催場所	エコプラザ西東京 講座室1・2
出席者	委員：山谷会長、一方井副会長、紺野委員、下田委員、石井委員、笠原委員、本橋委員、利光委員、斉藤委員、高橋委員、鹿島委員、小林委員、竹村委員（全13名） 事務局：坂本課長、岡本係長、小暮主任、高橋係長、三村統括技能長
議題	(1) 一般廃棄物処理基本計画について (2) その他
会議資料の名称	資料1 第4回西東京市廃棄物減量等推進審議会会議録 資料2 数値目標について 資料3 西東京市廃棄物行政に関する施策について（答申案文） 資料4 一般廃棄物処理基本計画（案）
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録

### 会議内容

- ・ 第4回西東京市廃棄物減量等推進審議会会議録については、12月16日（金曜日）までに確認
  - ・ 配布資料2～4の説明（事務局および株式会社日本環境説明）
- 山谷会長：  
答申案文について審議に入るが、意見等はあるか。
- 高橋委員：  
3ページ、電動式乾燥型生ごみ処理機の貸し出しとあるが、現在市では何台稼働しているか。
- 事務局：  
市で保有しているのは4台であり、そのうち主に貸し出し希望があるのは2台である。今年度は7件ほど貸し出しを行っている。申込者は、開始してから今までに40名ほどあり、現在も待っている方もいる。高さ約55センチメートル、幅約26センチメートル、重さ約12キログラムほどである。先着順で貸し出しをしており、期間は最大で1ヶ月間。昨年10月から数えると、14、15人に貸し出している。返却の際にはアンケートを記入してもらっている。まだ貸し出し件数が少ないので何とも言えないが、ごみの減量化については好評だが、電気代が必要との意見もある。

○鹿島委員：

ごみ対策については、問題を追いかけるのではなく、一步先に進んだ対策をとるべきである。市民にヒントを与え考えるような教育が大事だと感じる。

○本橋委員：

2ページの現行計画のごみ排出抑制計画の評価には、児童に対する環境教育の強化が盛り込まれているが、提言には児童への教育が示されていない。出前講座がそれに当たるのか。

○山谷会長：

提言にも環境教育について入れた方がよいということである。

○事務局：

素案55ページ、1-(3) 行政における方策に示してあるように、今回の計画においても盛り込む予定であるが、答申の提言の中にも盛り込む。

○石井委員：

児童だけでなく親への教育も必要ではないか。意識を持っている人とそうでない人の差が大きいと思う。親が意識を持つような取り組みもしてほしい。

また、ごみ排出の抑制について、清瀬市では、過剰包装をしないなどより具体的な内容が示されている。西東京市でももう少し具体的な取り組みを示すべきと考える。

○本橋委員：

事業者側としては、簡易包装にしたいくても、お客のニーズがそうではなかったりする。

○山谷会長：

答申案、とくに提言の部分でお気づきのことがあるか。

○紺野委員：

資源化の促進というところで、市民が分別して出してくれた資源を、持ち去られてしまうことがあるため、その対策を強化するという内容を盛り込んでほしい。

○山谷会長：

目標について、事務局で検討した結果、以前目標値について議論した際は、総ごみ排出量の原単位を基準として目標値を設定したが、柳泉園組合を構成している他二市では、家庭系ごみの原単位を基準に目標値を設定しているので、できれば家庭ごみの原単位を基準にしたほうが、他二市との整合をとりやすいとのことである。事務局より説明をお願いする。

○事務局：

目標値設定について説明。

○株式会社日本環境：

目標値について説明。

○山谷会長：

目標値の差し替えについてはいかがか。

○紺野委員：

資源化率の分母は、ごみ排出量と資源ごみ量をプラスしたものという事なのか。

○山谷会長：

分母については、資源化率、総資源化率を出す場合の分母と変わらない。集団回収も含まれている。しかし、ごみ排出量と言いながら、家庭系ごみのみであり、事業系ごみが含まれていない。資源物を別とした、家庭系のごみということになるため、発生抑制もさることながら、リサイクルをどう進めるかということが、政策的にも重要になってくる。継続性を重視したいということ、柳泉園構成市とも足並みを揃えたいということもある。

○株式会社日本環境：

家庭系ごみを重視して目標設定したのは、現行計画との継続性を確保すると家庭系ごみには資源ごみが含まれていないため、資源ごみがきちんと分別されれば、家庭ごみ原単位の削減となり、目標達成に向けて進んでいける。また、事業系ごみについては、素案の18、19ページに量を示しているが、西東京市の場合、東京都および全国平均と比べても非常に少ない比率となっており、家庭系ごみにターゲットを絞った方が効率的であると判断した。

○鹿島委員：

資源ごみの分別について具体的に説明してほしい。

○事務局：

古紙や雑紙を可燃ごみに入れている方が多い。そういうものを抜き出して分別の徹底をしていきたい。プラスチック容器包装についても同様。

○株式会社日本環境：

30～31ページごみ質分析結果の説明。

○鹿島委員：

エコ羅針盤で、市民まつりのことが書かれていて、資源物になるごみ、ICレコーダー、電子辞書、デジタルカメラ、ACアダプター等を持っていく場合、金属だけを取り出して持っていきべきか迷った。

○高橋委員：

迷ったら不燃ごみに出すという指針があり、不燃ごみが増える要因ではないか。また、出すときに迷ってしまうこともあるので、迷わなくて済むような施策があればよいと思う。

○竹村委員：

結局市民一人ひとりが分別できるかにかかっている。エコ羅針盤にごみ箱の前に貼っておけるような分別の一覧表を作ってもらって、誰が見ても分別の仕方がわかるようにした方がよいと思う。

○山谷会長：

目標値の差し替えについては、承認する。

(異議なし(全会一致))

○山谷会長：

提言を中心に意見があれば願います。

○鹿島委員：

ランドセルの素材はリサイクルされているのか。

○事務局：

リサイクルにまわすというのはあまりない。ごみとしても目立って出されていない。中学校の制服については、下級生が利用する等、一部でリユースが実施されている。

○高橋委員：

自分の経験でもランドセルはごみ扱いできなかった。

○本橋委員：

ランドセルは外国に寄付している人も多いようである。使いまわす人はあまりいないようだ。

また、31ページごみの不適正物が、マンション・アパートで多いという結果があるが、58ページごみの減量化計画1-(3)-8、ルール違反が著しい集合住宅への個別指導とある。集合住宅でも、分別がきれいにされているところは、表彰とまではいかないが、エコ羅針盤で取り上げて載せる等、インセンティブを与えてはどうか。

○山谷会長：

一種の啓発活動あるいは情報提供にあたる。もっとインセンティブプログラムに取り組む必要がある。

○鹿島委員：

地域ごとにごみ処理の現状をまとめて広報してはどうか。

○山谷会長：

福岡市では、地区ごとのごみの減量、原単位の数値等をホームページに載せている。地区間で競争意識を持たせる制度を以前から実施している。また、地域ごとの集積所の排出マナーについて評価を行っている自治体も出てきている。自分の地区が他と比べてどうなっているのか、知ってもらうのも大事である。多摩ごみ実態調査では、自治体別に比較できる。

○利光委員：

現行計画は目標値に比べ、実績値は予想以上により結果となっていることを、「皆さんの協力で、これだけ数字が良くなった」という評価についてどこかに盛り込んでほしい。これからも協力を図る上でも大切だと思う。

○一方井副会長：

児童向けの教材、冊子を作成しているのか。

○事務局：

西東京市としてはごみ関係の教材は作成していない。

○山谷会長：

答申案4ページ、資源化促進計画 1. 集団回収の促進 23年度上半期で約10団体が新規登録とあるが、集団回収について意義やメリットなどわかりやすくまとめてある冊子があると、登録団体を募集する際にも便利だと考える。

○事務局：

そういった市民への啓発努力により一層取り組みたい。

○本橋委員：

可燃・不燃ごみ等は、戸別収集を進め、ごみの減量に成功しているが、資源ごみについて、集団回収も進めるというのはどういうことなのか。

○事務局：

集団回収について説明。

○紺野委員：

集団回収を進めた方がよいのかどうか、どの自治体でも問題になっている。

業界としては、集団回収と行政回収の2本立てでやってもらいたい。リーマンショックのようなことがあると、集団回収ができなくなってしまうこともある。集団回収では、質の高い古紙を集めることができるため、集団回収を広めるとともに、行政回収でフォローしていく必要があると考える。また、集団回収は、地域コミュニケーションにも役立っており、両方を実施している自治体が多い。ぜひ、続けてもらいたい。

○山谷会長：

答申案3ページ、ごみの処理手数料引き下げの理由について、「プラスチック容器包装類の良質な資源化と不燃ごみからのさらなる資源化」というのもあったが、市民負担の軽減を図るということもあったので、「市民負担の軽減」を追加してほしい。

時間が迫っているので、基本的にこのようなかたちでまとめることとする。計画の素案については、後ほどお読みいただき、改めて大きな修正等あれば、12月16日（金曜日）までに事務局に連絡していただきたい。また、会議録についても、気づいた点があれば、同じく12月16日（金曜日）までに連絡していただきたい。

次回は12月22日（木曜日）午前10時～、田無イングリビル第1・2会議室。

○事務局：

今回は、市長も出席し、答申を会長から市長に渡していただく予定である。

○山谷会長：

以上で本日の審議会を終了する。